

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

光市教育委員会学校教育課

調査の概要

- 1 目的** 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査期日** 令和3年5月27日（木）
- 3 調査対象** 光市立小学校第6学年児童（11校） 光市立中学校第3学年生徒（5校）
- 4 調査内容** (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学） ①と②を一体的に出題。
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- (2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・達成感、規範意識、自己有用感等
 - ・ICTを活用した学習状況
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
 - ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響 等

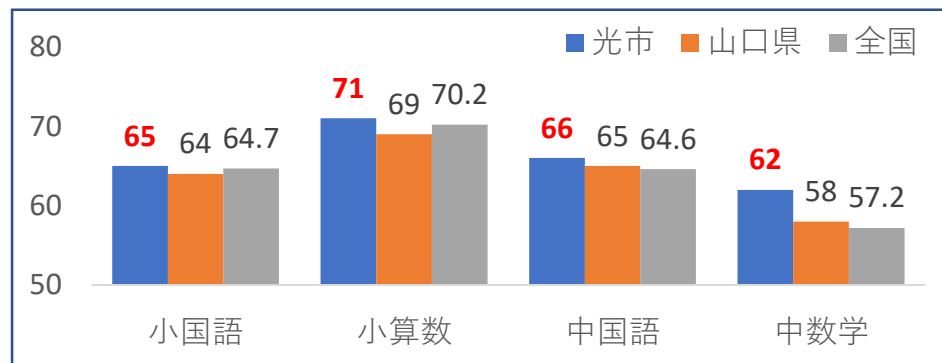
教科に関する調査結果

1 結果と分析

(1) 本年度の結果（平均正答率（％））

※平成29年度から、都道府県・市町村における平均正答率は整数値で提供

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
光市	65	71	66	62
山口県	64	69	65	58
全国	64.7	70.2	64.6	57.2



(2) 平均正答率の推移（H30～令和3年度の3ヶ年※を通して）

※全国平均を100とし、数値の差を表したもの

※平成31年度調査では、知識と活用を一体的に問う問題形式となったため、表の形式で示します。

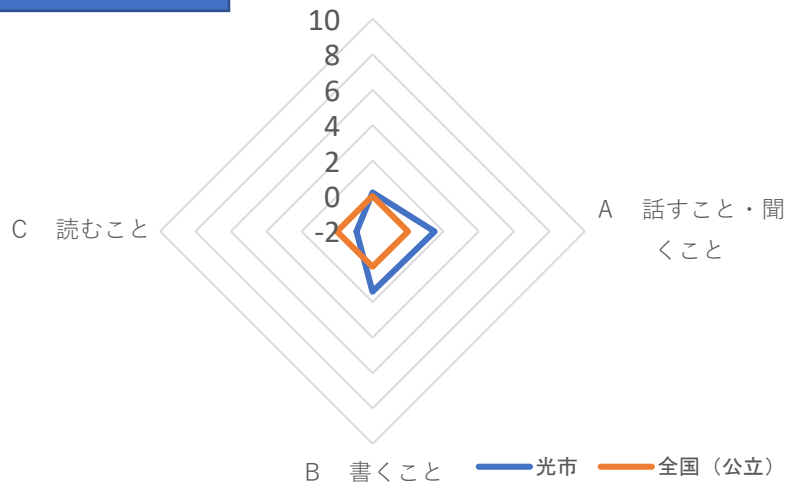
	小学校				中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B	英語
H30	101.8	104.2	102.3	102.9	102.4	104.5	105.9	102.3	-
	国語		算数		国語		数学		英語
R1	109.7		100.6		100.3		103.7		98.2
R2	-		-		-		-		-
R3	100.4		101.1		102.1		108.3		-

※令和2年度は未実施

領域別結果（小学校）

小学校国語

(1) 言葉の特徴や使い
方に関する事項

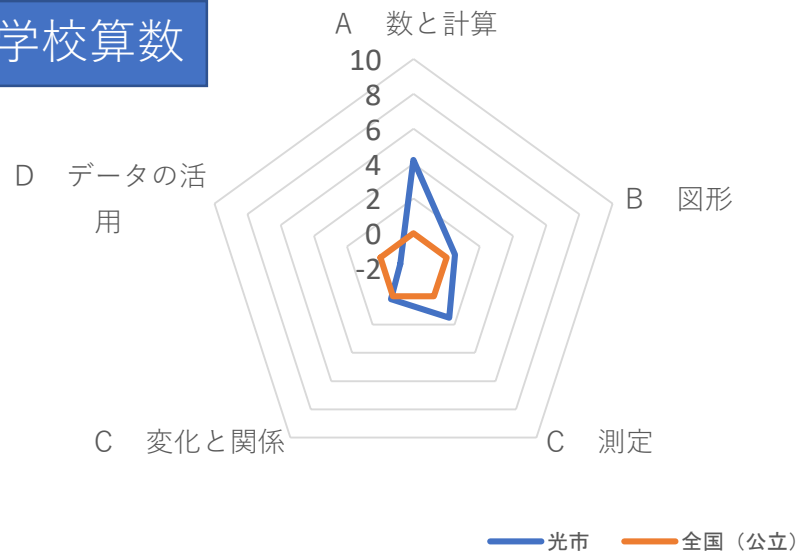


	平均正答率(%)			差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	65	64	64.7	+0.3
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.5	67.8	68.3	+0.2
A 話すこと・聞くこと	79.3	78.3	77.8	+1.5
B 書くこと	62.1	61.2	60.7	+1.4
C 読むこと	46.1	45.8	47.2	-1.1

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において全国平均を上回っている。

▲「読むこと」については全国平均を下回っている。文章全体の内容を正確に把握した上で、要約の目的や分量をなどを考えて文章の内容を短くまとめられるようにする指導が求められる。

小学校算数



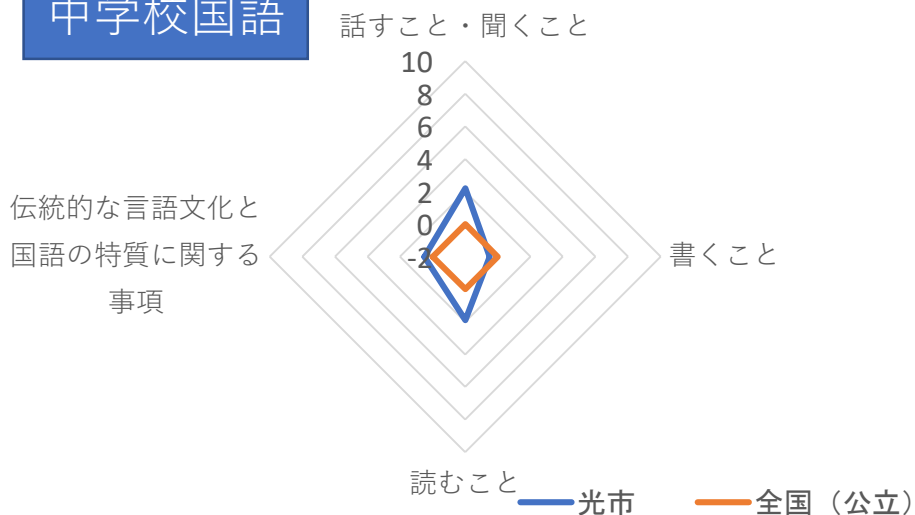
	平均正答率(%)			差
	光市	山口県 (公立)	全国 (公立)	
全体	71	69	70.2	+0.8
A 数と計算	67.3	63.2	63.1	+4.2
B 図形	58.4	57.1	57.9	+0.5
C 測定	76.3	74.8	74.8	+1.5
C 変化と関係	76.1	75.2	75.9	+0.2
D データの活用	74.8	74.1	76.0	-1.2

○「データの活用」を除く4つの領域において全国平均を上回っている。

▲「データの活用」については全国平均を下回っている。身の回りの事象について、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取りながら問題を解くことができるようにする指導が求められる。

領域別結果（中学校）

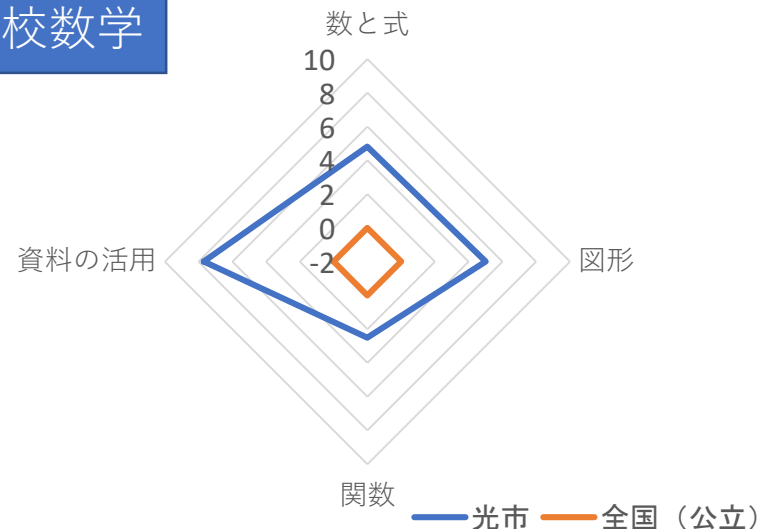
中学校国語



	平均正答率(%)			全国との差
	光市	山口県（公立）	全国（公立）	
全体	66	65	64.6	+1.4
話すこと・聞くこと	82.0	80.1	79.8	+2.2
書くこと	56.6	56.9	57.1	-0.5
読むこと	50.4	49.0	48.5	+1.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.6	74.7	75.1	+0.5

○「書くこと」を除く3つの領域において全国平均を上回っている。
 ▲「書くこと」については全国平均を下回っている。読み手の立場に立って自分の書いた文章を捉え直し、分かりやすい文章に整える指導の工夫が求められる。

中学校数学



	平均正答率(%)			全国との差
	光市	山口県（公立）	全国（公立）	
全体	62	58	57.2	+4.8
数と式	69.7	65.3	64.9	+4.8
図形	56.4	50.8	51.4	+5
関数	58.9	56.4	56.4	+2.5
資料の活用	61.5	55.3	53.8	+7.7

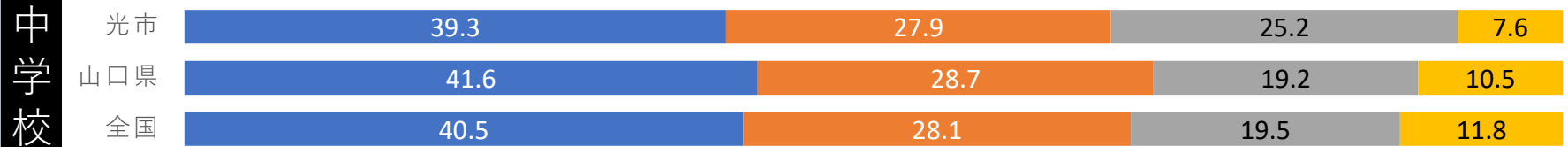
○全ての領域で全国平均を大きく上回っており、無回答率も低く、粘り強く課題に取り組む態度が身に付いていると捉えられる。
 ▲設問別にみると、日常生活における事象を数学的に捉えて説明することなどに課題も見られることから、事象を数値で表すなどして、その関係や規則性を見出し、説明し合う活動などの充実が求められる。

児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

将来の夢や目標を持っていますか



自分にはよいところがあると思いますか

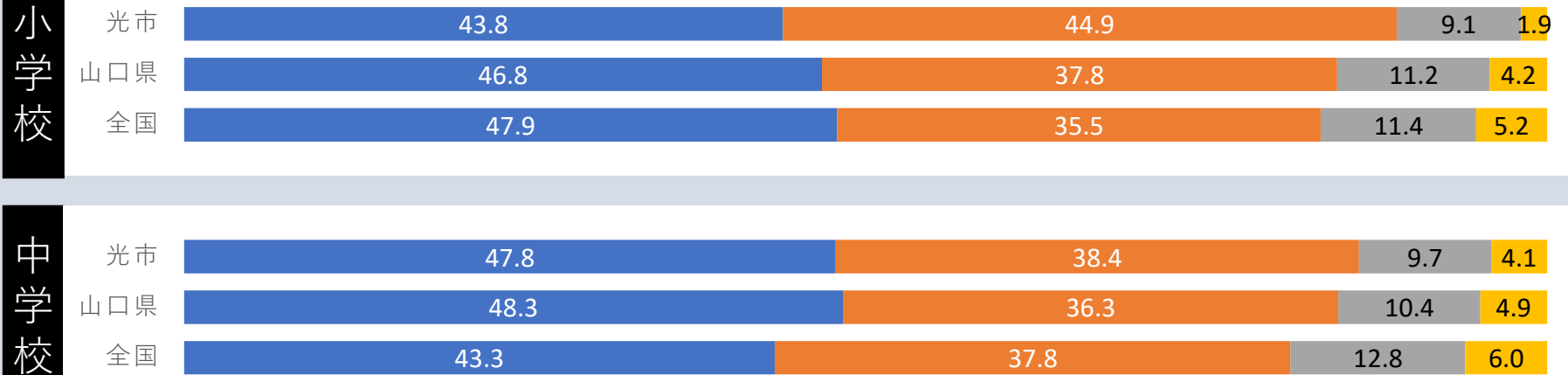


児童生徒質問紙の結果

①子どもの意識に関する質問

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

学校に行くのは楽しいと思いますか



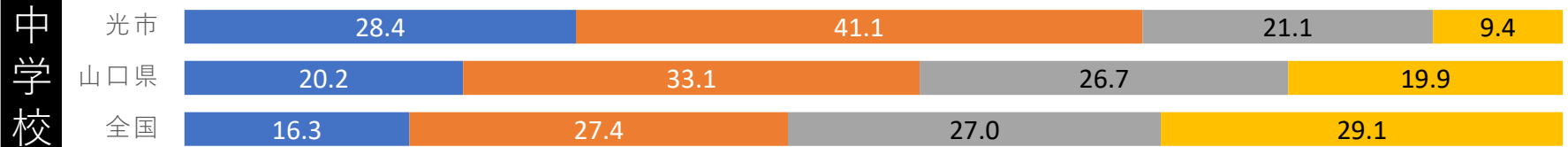
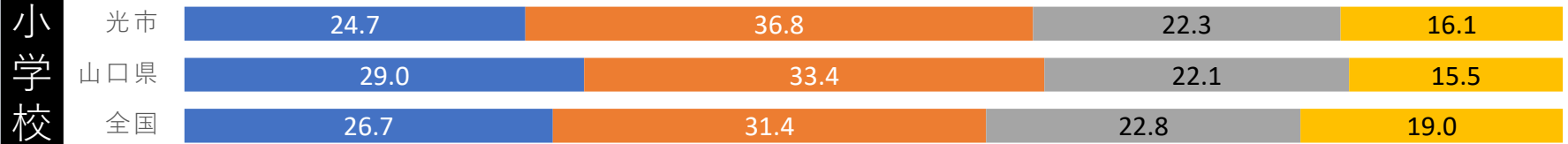
「自分には、よいところがあると思いますか」、「学校に行くのは楽しい」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国や県と比較しても高い。

「将来への夢や目標を持っていますか」という質問に対して肯定的に回答している児童生徒の割合が初めて全国をやや下回る結果となった。児童生徒一人ひとりの良さを具体的に認めたり、適切に評価したりする指導の一層の充実に努めていくとともに、児童生徒が夢や目標をもったり、自己成長を感じたりすることができるよう、普段の教科学習はもとより、コロナ禍の中でも安全面に配慮しながら行事等の活動を工夫して実施する中で、キャリア教育を進めていく必要がある。

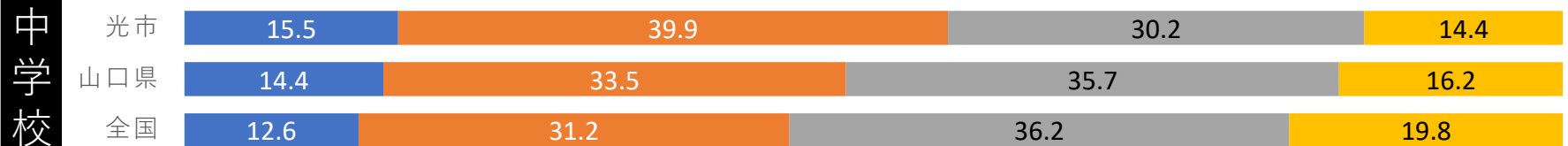
児童生徒質問紙の結果

②地域との関わりに関する質問 ■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

今住んでいる地域の行事に参加していますか



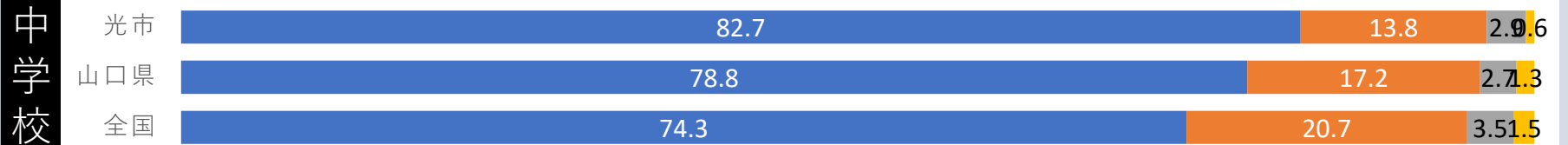
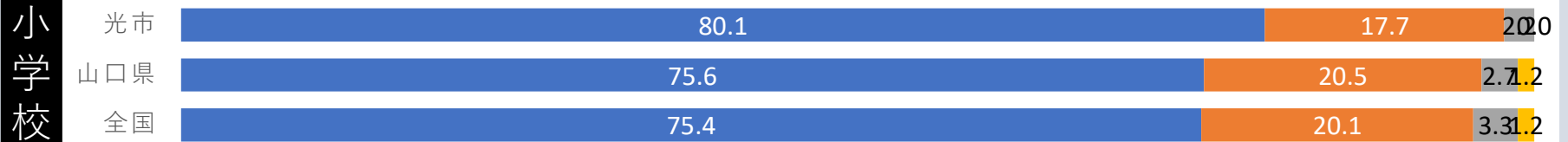
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



児童生徒質問紙の結果

②地域との関わりに関する質問 ■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に肯定的に回答している生徒の割合は、全国や県と比較しても高い。

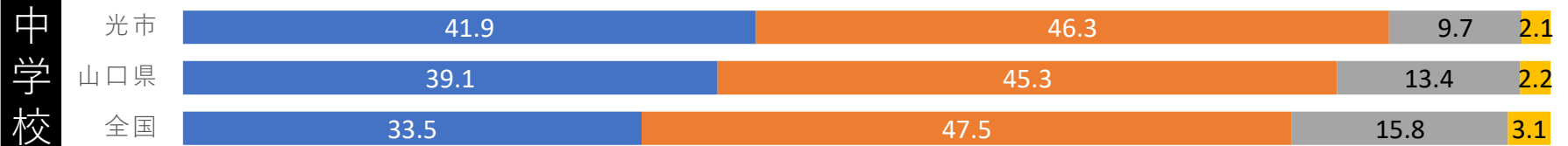
「人の役に立つ人間になりたいか」という質問に肯定的に回答しているという児童生徒の割合も全国平均を上回っている。今後も地域とのつながりを大切にされた指導の充実を図り、児童生徒の自己肯定感を高めたり、学習意欲等につなげたりすることができるようにする。また、児童生徒自ら主役となって、地域に働きかける学びの場を開発・実践することを通して、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、工夫して取り組むことが求められる。

児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

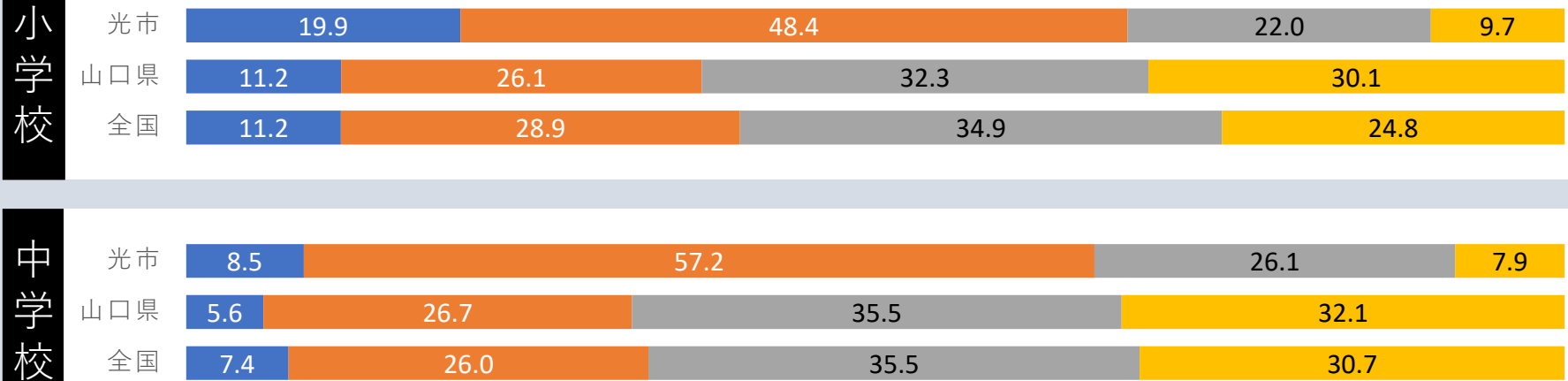


児童生徒質問紙の結果

③授業改善に関する質問

■ ほぼ毎日 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に、肯定的に回答した割合が小学校で全国平均を下回った。また、「学習した内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国や県の平均を上回った。

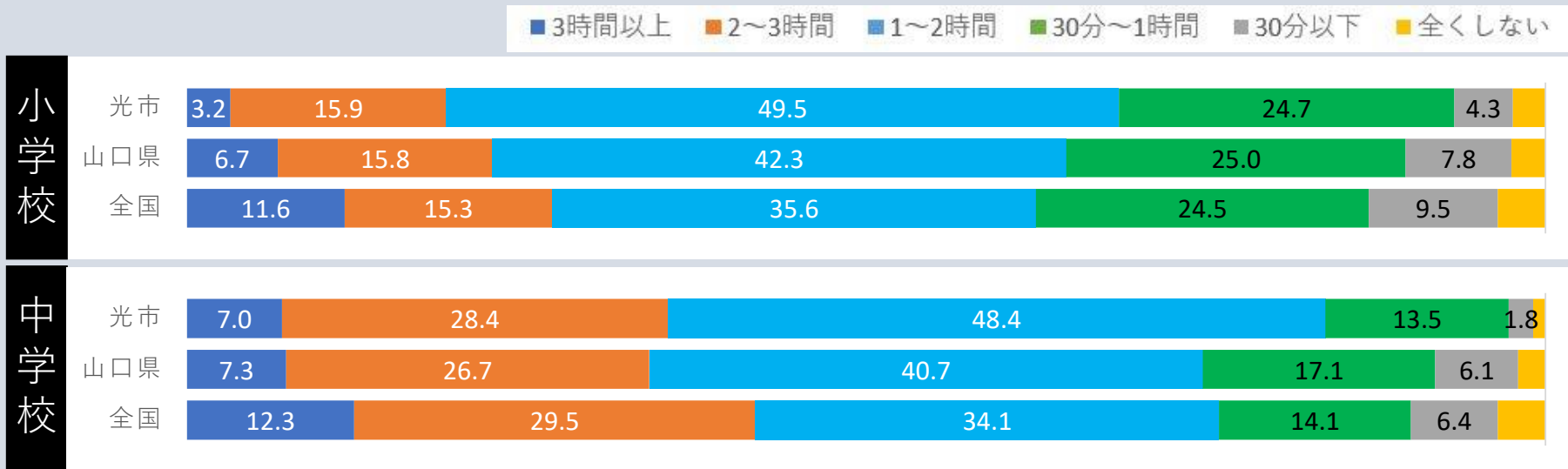
ICTの活用について、本市では昨年度1月より一人一台タブレット端末が導入され、積極的に授業で活用したことから、使用頻度が全国平均を大きく上回った。

引き続き、「光スタンダード」を周知し、児童生徒自らが課題をもち、見通しをもって学習に臨めるような提示の工夫、話し合いにより自分の考え広げたり深めたりする場の工夫、学習の振り返りの工夫等を行いつつ、ICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びが充実するよう、授業改善に努める。

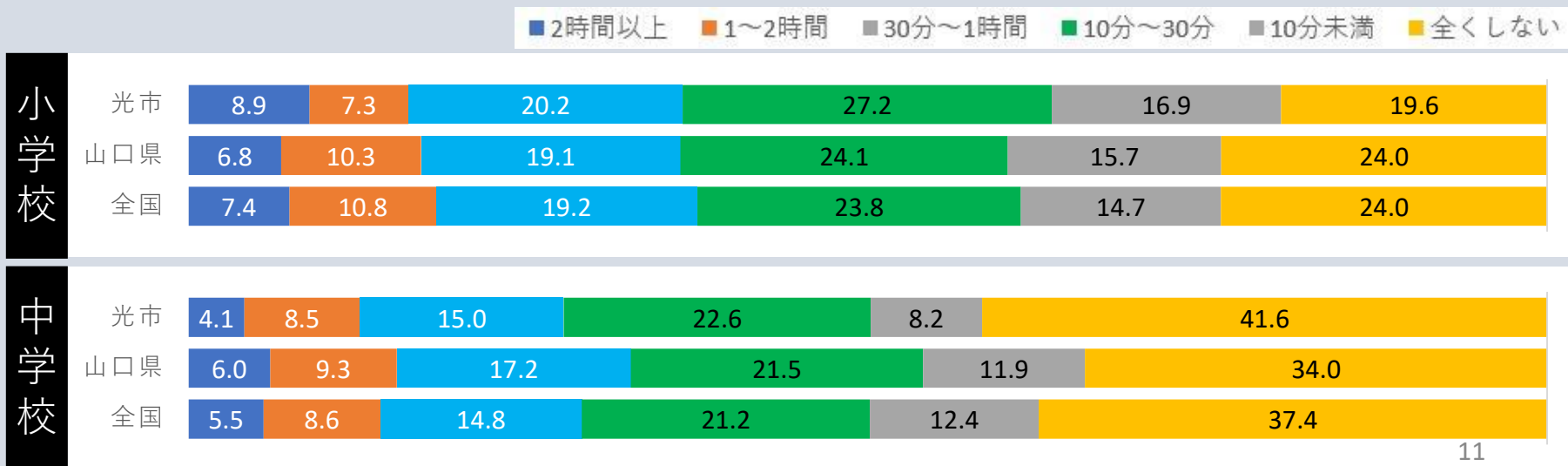
児童生徒質問紙の結果

④家庭での学習習慣に関する質問

平日一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか（学習塾・家庭教師・インターネットを活用した勉強時間を含む）



学校の授業時間以外に、普段一日当たりどれぐらいの時間読書をしますか

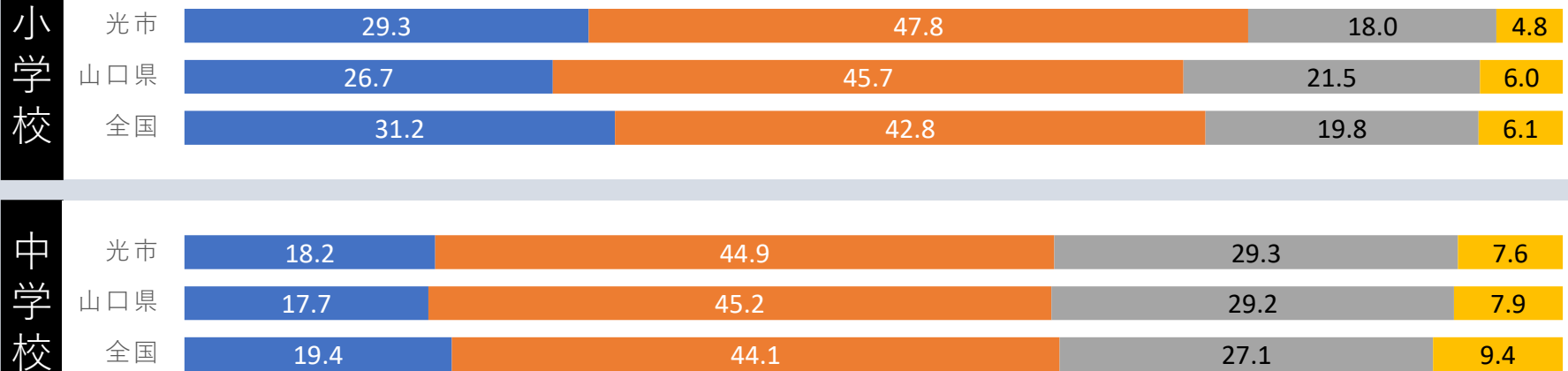


児童生徒質問紙の結果

④家庭での学習習慣に関する質問

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない



平日に1時間以上学習している児童生徒の割合は、小学校では68.6%、中学校では83.8%であり、全国や県の平均を上回った。小学校については令和元年度に比べ下降傾向にある。（令和元年度は74%）

「自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回った。

自分で計画を立てて勉強している児童生徒は正答率が高い傾向が見られることから、今後も引き続き、家庭教育との連携を密にし、家庭学習の習慣の定着と内容の工夫に努めていく。

また、読書を全くしない児童生徒も増加傾向にある。特に中学校において読書を全くしない生徒の割合が全国平均を上回った。学校における全校読書等、読書指導の充実に向けた取り組みが必要である。

実施後の対応

1 学校の対応

(1) 学力向上への組織的・日常的な取組の推進（継続的取組みと改善）

「光スタンダードの活用」、年2回の検証サイクルによる具体的な取組みの実施

(2) 地域・保護者への情報提供

学校運営協議会における説明、学校だより等による報告、保護会懇談会等における報告

(3) 児童生徒・保護者への個別対応

個票の返却と助言

2 市教委としての対応

(1) 結果分析・報告

10月中旬に市のHPに掲載予定

(2) 学力向上担当者会議を実施（令和3年8月25日）

光市全体の課題解決に向けた今後の取組みの協議・共有

各校学力向上アクションプランの見直し・再構成

(3) 各学校の課題に応じた訪問支援

学力向上ヒアリング（2回目）

校内研修等での授業改善支援

(4) 学力向上推進リーダーとの連携

学力向上ベース会議による情報交換

授業改善研修会の実施